
○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時05分）

◇ 福 本 栄一郎 君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、福本栄一郎君。

（6番 福本栄一郎君 登壇）

○6番（福本栄一郎君） 通告に従いまして、ただいまから一般質問を行います。

真の安心・安全なまちづくりとは何でありましょうか。人口の減少問題、超少子高齢化、地域経済の疲へいによる雇用不安、生活不安、更に医療・介護不安等々今日ほど真剣に政治が問われている時はないかと思います。

皆様の声が議会に十二分に反映される町政を作らなければ、安心・安全な暮らしはできません。そして、生きがいも生まれません。

今年は、統一地方選挙で、今定例会は、我われ議員最後の定例会であります。安心・安全な住みよい幸福感あふれるまちづくりを目指すため、今定例会会期いっぱい全力投球していきたいと思います。

そこで、私の一般質問であります、町政の取組についてであります。

まず、質問事項の①昨年9月の一般質問で松崎海岸の津波対策について質問いたしました、その後の進捗状況についてお伺いいたします。

②区長、役場職員、消防署員セットでの見回り実績とその後の対応についてお伺いいたします。

③桜葉を振興するため桜葉振興室を設置いたしましたが、今年度の具体的な取り組みとその成果についてお伺いいたします。

④順天堂静岡病院行きのバスは、昨年12月の一般質問で「結果を見ると、町単独ではできないと思う」と答弁しておりますが、新年度、公約を果たすための具体的な方策についてお伺いいたします。

⑤今年度の地域おこし協力隊のそれぞれの活動結果をどのように評価しているのでしょうか。また、協力隊の活動状況は広報紙に一回しか掲載されておりましたが、情報発信されていない理由はなぜでしょうかお伺いいたします。

⑥コンシェルジュの来庁者への対応実績について。また効果をどのように検証しているのでしょうかお伺いいたします。

最後になりますが、⑦平成30年4月1日現在の松崎町の現況を見ますと、人口6768人、世帯は2990世帯、65歳以上の人口は3026人、高齢化率44.7パーセント、高齢者世帯1857世帯、ひとり暮らし高齢者世帯726世帯、介護保険・介護認定者数539人となっております。

町長は、この松崎町の現状をどう受け止めているのでしょうか。また、安心・安全な住みよいまちづくりを目指す町長の新年度に向けての考えについてお伺いいたします。

町民の皆様方の安心・安全な暮らしを守るため具体的かつ満足のいくわかりやすい明確な答弁を期待いたします。

以上、壇上からの質問を終わります。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長（長嶋精一君） 福本栄一郎議員の一般質問にお答えいたします。全て町政の取り組みについてでございます。

①昨年9月の一般質問で松崎海岸の津波対策について質した。その後の進捗状況についてどうなっているかということでございます。

9月の一般質問の際には、防潮堤の整備にあたり、交付金の対象事業とするためには、まちの将来像や地域活性化策を考慮し、ハード・ソフトを総合的に取り組むための津波防災地域づくりに関する法律に基づく「推進計画」を町で策定する必要があると回答しております。

津波防災地域づくり推進計画については、防潮堤・水門の整備などのハード対策や、避難路・避難ビルの整備や避難計画などを含めたまちづくりのソフト対策を総合的に推進していかなければなりません。このため、現在は、産業建設課を中心に総務課、企画観光課と連携して国の示したフォーマットなどを活用し、他市町の事例を参考にしながら、推進計画策定の作業を進めています。

また、策定にあたっては、国土交通省のデリバリー型サポートも活用しながら指導や資料提供をお願いしているところでございます。

さらに、今後は学識経験者や県、地元関係者などでの協議会の立ち上げや、住民参加による合意形成などの対策を検討していくこととなります。

②区長、役場職員、消防署員セットでの見回り実績とその後の対応はどうかということでございます。

災害に強いまちづくりの一環として、昨年5月20日から区長さんの協力を得て、防災担当職員と合同で地区回りをを行い、危険箇所等の把握に努めてまいりました。1月末までに、町内35地区で延べ140日の実施となりましたが、中でも道路関係の危険箇所に対する要望が最も多く約70か所を把握し、修繕等により対応したところでございます。

また、10月には消防本部、消防団にも協力をお願いし、住宅密集地での火災を想定した火災防護計画に基づく、消防水利や消防車両等の配置を現地にて確認いたしました。

今後も区長さんや関係機関との連携を密に防災対策に努めてまいりたいと思っております。

③桜葉を振興するため桜葉振興室を設置したが、今年度の取り組みとその成果はどうなっているのかという質問でございます。

町の希望としては、外部の目を入れた上で桜葉産業振興策を練りたいと考えておりましたけれども、予算化されなかったため町独自で振興策を練ってまいりました。

現状も十分把握できていない状態からのスタートでしたので、改めて現状把握調査を実施したところ、想定されていた生産量や従事者数なども大幅に減少している状況であり、2月22日に桜葉の塩漬業者が撤退することなどが報道されるなど、桜葉産業には逆風が吹いている状況であります。

しかし、反当りの所得が非常に高いこと、そして何より桜葉は先人が延々と紡いできた産業で松崎の農業遺産でもありますので、この1年間様々な取り組みをしてまいりました。

まず桜葉を増産するためには農地確保が重要で、松崎高校付近の休耕地の内、5畝区画、13区画分を桜葉畑にするべく調整を進めており、すでに栽培を開始した区画もあります。

また、この一部分の管理を桜葉振興会の手を借りながら、東部支援学校生徒と行っており、将来の担い手育成にも着手いたしました。

最盛期は300万束以上生産されていたという桜葉ですが、現在は30万束まで減少している状況の中、一歩ずつ取り組んでおります。皆様のご理解、ご支援をお願いしたいところでございます。

④順天堂静岡病院行きのバスは、昨年12月の一般質問で「結果を見ると、町単独ではできないと思う」と答弁しているけれども、今後も公約を果たすためのどうしたらいいのかという具体的な方策をお聞きしたいということでもあります。

順天堂大学附属静岡病院への通院の利便性向上を目的とした実証実験において、利用率は低調でありましたが、順天堂大学附属静岡病院を利用している方の通院頻度や交通手段など

がわかり、検証できたことは大変良かったと思います。

実証実験終了後、南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会にて検証結果を踏まえ、検討協議を行い本年4月以降の新たな運行方法について具体的に取りまとめましたが、3月11日開催の協議会で、正式に決定することとなっております。決定次第、町民の皆さまに周知してまいりたいと考えております。

⑤地域おこし協力隊についてでございます。協力隊の活動状況は広報紙に一回しか掲載されていないが、情報発信されない理由はなぜかという質問であります。

町では、平成23年度に静岡県で初めて地域おこし協力隊制度を導入し、7年が経過いたしました。

この間、石部棚田保全活動、グリーンツーリズム、スポーツツーリズム、なまこ壁の保存活動、町の情報発信など積極的に行ってまいりました。

本年度は、地域おこし協力隊5名により、棚田保全やイベントの実施、桜葉の商品開発支援、木工塾の開催など町民及び関係団体の皆さまと協力し活動しております。

棚田においては、保存会員の高齢化による後継者担い手不足という課題解決に向けて、また桜葉については町民有志の皆さまと協働して料理開発を行い、木工塾では木工作品づくりを通じて町内外の木工職人とのネットワークを築き、松崎町がものづくりの拠点となるよう頑張っております。

こうしたことから、協力隊員は、地域課題解決の事業や新たな産業の可能性を探る事業を進めるとともに、地域コミュニティの一員として、大いに貢献していると認識しております。

活動内容につきましては、決して情報発信していないというわけではございませんが、これまで以上に広報紙などを活用して情報発信を行い、PRしてまいります。

⑥コンシェルジュの来庁者への対応実績また効果をどのように検証しているのかという質問であります。

コンシェルジュにつきましては、来庁者への挨拶の徹底やきめ細やかなサービス、職員教育を目的に8月20日から始めたものです。

当初、職員からは「人的配置の余裕がない」などの声もありましたが、各自が仕事の進め方や業務を見直すことにより時間をつくり、交代で対応してまいりました。

その結果、挨拶やお困りの方への案内もだいぶ徹底されてまいりましたので、1月末をもって一時中止としたところでございます。

この間、窓口でお困りの772人の方に職員が直に接し対応いたしました。大変勉強になったのではないかと思います。

来庁された方からの意見をもって検証としておりますが、評判もまずまずとの声を聞いております。

福本議員の最後の質問でございます。

⑦平成30年4月1日現在の松崎町の現況を見ると、人口、65歳以上の人口、高齢化率、高齢者世帯の割合、ひとり暮らし高齢者世帯の数、介護保険・介護認定者数は非常に大変な状況になっている。町長は、この状況をどう受け止めているのか。また、安心・安全な住みよいまちづくりを目指す町長の新年度に向けての考えはどうかということでございます。

当町においては、依然として景気の低迷、少子化、若者の流出による人口減少が続き、後継者の不在や事業主の高齢化により、すべての産業が疲弊し厳しい状況となっております。

また、労働力人口は人口の半数以下となり、町全体が限界集落の一手手前の状況であります。

私は、これらの問題に正面から向き合い、町民一人ひとりが助け合う町民満足度の高い町となり、この文化・伝統ある町を次世代に引き継げるよう行政運営を行ってまいります。

私が掲げる町政運営の3本の柱、「農林水産観光業の一体推進による経済活性化」「災害に強いまちづくり」「医療・福祉の充実」を推進する上でのキーワードは「RE」と「繋がり」であります。「RE」は、リメイク、リカバリー、リバイバル、リストラクチャリング、リノベーション等々、再生、復活であります。

先人が築いてこられた「人」「モノ」「教え」を農林水産観光業一体推進にて経済活性化を図りたいと思います。

「繋がり」については、県内で1番人口の少ない町だからこそ、「災害に強い町」「医療・福祉」の面で老若男女が助け合う町にしていきたいと思います。

以上でございます。

○6番（福本栄一郎君） 一問一答お願いいたします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○6番（福本栄一郎君） 一問一答の許可を得ましたので、順次聞きたいと思います。

まず、1点目、松崎海岸の津波防災対策でございますが、町長は、行政はスピード感を非常にモットーとしている町長だと私は思っています。

それについて、地区協議会が作られてもう足かけ2年ですか・・・、それについて何ら知ら

せていない。地震はいつ起きてもおかしくない、しかも東海地震、南海地震等々でございます。しかもこの海岸地帯はプラス5.8メートル・・・、それが13メートル近く・・・、L1、L2の関係はありますけれども、それについて、非常に・・・、海岸端・・・、特に高齢者を抱えている世帯が非常に心配しています。逃げ切れない・・・、その辺の考え方はいかなものでしょうか、再度質問いたします。

○産業建設課長（糸川成人君） 町長の方の回答にもありましたとおり、現在津波防災地域づくり推進計画というものの策定を進めているところでございます。

こちらの方の推進計画がないと県の方で整備をする防潮堤の嵩上げ、水門等の整備について国の交付金の対象とならないということでございますので、まずは、こちらの方の計画を進めているというところでございます。

○6番（福本栄一郎君） それは、担当課長のおっしゃるとおりですけれども、松崎町が自発的に県へと働きかける、あるいは国に働きかける、いろんな組織があるわけですね。例えば、我われの団体もそうなんです。陳情なり・・・、それが非常に形になって見えてこない。いつ起きてもおかしくないというのは・・・、いま来るかもわからないですけども・・・。しかも地震が起きて津波は5分以内に到達・・・、海拔・・・、こんな役場のところで2.5メートル位でしょう。海拔が・・・。もう一挙ですよ、あつという間です。

この会議をしているあいだにも大津波が来るかもわかりませんが、その辺の町長の考え方、取り組み方、県へと積極的に・・・、防災計画を作る作らないといっても・・・、また同じような質問をすればまたその回答が返ってくると思うんですよ。この辺の積極性ですよ。町長の行政の取り組み方をお伺いします。

○統括課長（高木和彦君） 実際にいろいろな協議をして、まだ着手していないことがありますのはご承知のとおりです。

平成29年度にかなりこういったような部分がありましたけれども、30年度になりまして、県ともいろいろな協議を進めて、先ほど産業建設課長がお話したような計画を作ると・・・、これをこの平成31年度中に策定しまして、32年度に申請して、今の予定だと平成33年4月からは実質的に建設に向けて動くような予定でおります。

○6番（福本栄一郎君） じゃあ、この質問は3点目にしますが、県がやっております地区防災会議ですか、私もメンバーに入っていますけれども、30数名いますよね。松崎地区では・・・。その辺の県との連絡、これから開かれる予定はあるんですか。その辺をお伺いします。

○産業建設課長（糸川成人君） 県の方で行ってございました地区協議会につきましては、中間報告ということで、平成30年10月に中間報告ということでまとめて公表されております。それに基づきまして、この推進計画の方も合せて整備をしていくような形になっていくということを進めているところでございます。

○町長（長嶋精一君） 福本議員がおっしゃることは全くそのとおりであります。いまここで津波が来るという可能性もあるわけでございます。

私は、災害に強い町を標榜しているといいました。それでは、何をやっているかという、先ほどから申し上げているとおり防災職、役場の職員の防災担当者と区長さんと各地区を回って危ない所をチェックすると言いました。これは実行しております。

そして、これを使いながら、この制度を使いながら、一人暮らしの高齢者の方々がいったどこにいるのかということをはっきりさせて、それをいざという時には、だれがどのように救済していくのかということまで踏み込んでいかなければ、だめだと思っています。それを福本議員はおっしゃりたいんじゃないかと思います。

そして、県がやってくれるから我われはやるんじゃないんです。我われが考えて県に申し出るということを福本議員・・・、やっております。

したがって、県の方もずいぶん日経っているものですから、ちょっと構えているところもありますけれども、これについては、私の方も建設課長それから統括課長と一緒に申し入れて、迅速に方向性をやっていきたいと思っています。以上です。

○6番（福本栄一郎君） わかりました。それで、人間の記憶というのは非常に薄れてくる・・・、その時ばかり・・・、東北大震災・・・、やがて3月11日で丸8年になります。記憶がだんだん薄れてくる。平成23年3月11日の午後2時46分ですか、マグニチュード9.0、大地震・・・、2万人以上・・・、未だに行方不明・・・、気の毒な方もいます。災害関連死を含めると2万人以上になる・・・。

これがだんだん記憶が薄れてくる。その時には非常にすごかったんですよ。避難訓練等々、松崎町でも・・・。

ところがだんだん、もう記憶も薄れて、いつのことでしたよと・・・。記憶が薄れないためにも町長がモットーとしているスピード感をもってやってもらいたいと思います。これは終わります。

2番目の区長、役場職員、消防署員のセットで見回りは、先ほどの町長答弁で・・・、140日間ですか、35地区で・・・、道路が70か所ということで回答がありましたけれども、町長に先

に言われましたけれども、私が、この高齢者世帯の・・・、松崎町が先ほど言いましたように6700人、わずか6700人・・・、この6700人は・・・、アメリカの・・・、例を出すといけなけれども、航空母艦だと5000人近く乗っている1つの船に・・・。そういうことで認識してもらいたいです。わずか・・・、この松崎の・・・、狭いですよ。面積は約85平方キロですか・・・。広いですが、人口はわずかこれだけです。

それについて、65歳以上の人口が3026人、2人に1人が65歳以上です。それで、高齢者世帯が1857世帯、一人暮らしが726人、これは去年の4月1日現在ですね。

介護保険認定者が539人、この人たちの救出方法、同居している方々が・・・、私たちは駆け足もできる。だったら、一緒に同居しているお父さん、お母さんをどうしますかということが一番の悩んでいるんです。

確かに、土砂崩れのあるところも大変でしょうけれども、この津波浸水区域の人たちの避難路、避難する方法、手助け、その辺はどういうふうに考えているのでしょうか、お伺いいたします。

○総務課長（山本稲一君） 大災害が起こった時は、町は行政として即座に対応して動きますけれども、大災害が起きた時には行政・・・、わずか松崎町の職員は80数名しかおりません。全員で対応しても町内くまなく対応はできませんので、そのあたりは自助、共助ということで、自分たちのできることは自分たちの地域はみんなで守りましょうということで、守っていただきたいと思いますけれども、そういった意識を住民の皆様に強く持ってもらえるように、各地区を防災の研修といいますか、先日宮内区の方ではちょっと役員会にお邪魔させてもらって、防災の研修をさせていただきましたけれども、そういう意識を住民の皆様にもっていただけるよう啓発に努めてまいりたいと思います。

○6番（福本栄一郎君） 総務課長が言ったことはよくわかりますけれども、今度の3月10日日曜日10時からですか、津波避難訓練がありますけれども、我われ宮内は円通寺ということになっていますけれども、それについてやはり避難訓練はみんな若い・・・、日曜日になりますので、中学生とか高校生がいますけれども・・・、宮内は狭いですが、見ているとお年寄りの方はほとんど来ない。じゃあ、何をしているのかなといえ、家の中にいます。よく聞きますと、私はいから・・・。あなた方はもう逃げてください・・・、そういったことがないように・・・。非常に家族の人たちが困っているんです。一番頭を抱えている問題です。果たして、私たちが逃げていいのだろうか、お父さん、お母さんを置いて・・・。それを自助だ、共助だ・・・、それはわかりますけれども、その辺の役場としての配慮が・・・、確かに人

数の制限もいろいろあるでしょうけれども、その辺の考え方をもう一度町長からお伺いいたします。

いわゆる災害弱者の援助ですね。その辺の支援の仕方をお伺いいたします。

○町長（長嶋精一君） 福本議員がおっしゃるように、自助、共助というような言葉が一人歩きして、あたかも役場が責任を回避しているというふうになっては、私はいけないと思います。

それで、私どもの方は、できる限りにおいて、先ほど申し上げました防災担当が3名おりますが、区長さんと共に各地区を回っております。そこら辺でコミュニケーションをよくして、いざという時に、お宅は、あなたは、どういうふうに考えていますかということを徹底的に掘り起こして、それを一人ひとりの記録に記入し、落とし込んで対応を図ってまいりたいと思います。

これは、非常に手がかかるといいますか、力がある仕事だと思いますけれども・・・、しかし、もう高齢者の方が、「若い衆だけ逃げてくれ」というのに対して、「ああそうですか」というわけにはなかなかいかないと思います。

そこを踏み込んで、どうしていくのかということは考えたいと思います。これは、話は全然飛躍しますけれども、虐待の問題といじめの問題と似たようなところが・・・、突き詰めていくと・・・、関心がないというふうになってしまつては、町はいけないと思います。

先ほどから言っているように、人口が少ない町だからこそ繋がっていかうじゃないかと・・・、そういうふうに・・・、繋がりというのを言葉だけじゃなくて、助け合っていこうというふうに具体的にやってもらいたいと考えています。

○6番（福本栄一郎君） 次に移ります。

桜葉の関係ですけれども、先ほど町長のお答えなんですけれども、ここに新聞の記事があるんですけれども、「桜葉産業、高齢化で危機」「松崎の塩漬けの工場が撤退する」ということがありますけれども、これについては、町長の公約の中でもありますけれども、桜葉再生、松崎ならではの農産物開発ということで、3つの政策の中に掲げていますけれども、この工場撤退なおかつ桜葉・・・、松崎町では桜葉振興室を作っておりますけれども、新年度の予算も僅かなようですけれども、その辺の考え方、生産しても・・・、松崎町は全国シェア7割といま言われていますよね。この新聞記事とはまた別の問題ですけれども・・・。

松崎で生産して、松崎で加工して出しているのが7割ということでしょう。松崎で生の葉っぱを移出、松崎以外の市町村にということじゃなくて、全て松崎で生産して、松崎で塩漬

けをして生産した完成品を各和菓子屋、問屋さんですか・・・に流通させているということですから、この考え方がなければ、これが松崎町の一番根本だと思います。

桜葉は生産してもこちらが・・・、加工品として作ると・・・、これは工場が撤退・・・、こちらは全ての企業秘密でしょうけれども、ノウハウを持っていると思います。その辺の考え方はいかがでしょうか。

生産と桜葉の加工品を作る技術、この辺はどうでしょうか。

○統括課長（高木和彦君） この話をする時には、いま桜葉の現状をお話しないと進まないんじゃないかというところがありますので、ちょっとお話をさせていただきます。

平成28年に賀茂農林事務所で発表された数字ですと、松崎町には23ヘクタールの桜葉畑があつて、約300万束が生産されているということでした。

実際、28年の時に、私は建設課にいる時に調べてみて、改めて今回、平成30年度に全桜葉農家を回ってみますと、実際に作っている面積というのは3.8ヘクタール、もう10分の1に近い量、それで、300万束というのは、実際には30万束でした。

ですから、現状としては、松崎町で全国の70パーセントを生産しているという数字は、とうにもう崩壊している数字でございます。

私どもはこれから一步一步どういうふうにするかということで取り組んでいるわけですが、まず、桜葉の葉っぱは畑でできるわけですから、圃場整備の方から進めました。

今はこの季節ですので、まだ見えないんですけれども、いま松崎高校の前にですね・・・。町長がちょっと説明をしましたけれども、概ね6反5畝、実際に法面とか、そういうことを数えるともっと減ってくると思うんですけれども、そちらの方の圃場整備を始めて、これも町長の答弁にありましたけれども、支援学校の子どもたちを入れる形、これだけで先ほど3.8ヘクタールの面積ということですが、ここを入れるだけで最終的には4.4ヘクタールで、16パーセント増になります。

これは、畑を増やすだけでなく、生産者を増やさなければならないわけですから、その辺については、順次見直していきたいと思います。

また、一番の問題につきましては、桜葉のまるけなんです。1時間に10個しかできない。ということは、人に頼むと1時間に300円しかまるけが収入にならないという実態もありますので、これは、業者さんなんかといろいろ相談しながら、ここを多くまるけができる、多く加工ができるような形にしたいというふうに考えております。

○6番（福本栄一郎君） ですから、生産と加工、この辺が・・・、松崎で葉っぱを作ったか

ら、ほかの市町村に持って行って生産するということじゃなくて・・・、あくまでも理想論ですけれども、かたや民間ですけれども、松崎で生産したものを松崎で加工して移出してもらった方が一番いいということで、要望いたしまして、この質問を終わります。

次に、順天堂行きのバスなんですけれども、これは、私の昨年12月の一般質問でやりましたが、結果をみると、町単独では無理だと答弁をいただいておりますけれども、今後の方策ということで、町長の答弁なんです、3月11日ですか、協議会と言いましたけれども、これは実施されるんですか。その点を先にお伺いします。

○企画観光課長（高橋良延君） 本年4月以降の新たな運行方法については、この11日の協議会、ここでお諮りいたしますので、そこで承認されれば、4月から新たな運行方法ということで周知してまいりたいと思います。

○6番（福本栄一郎君） 地域交通公共会議でしょう。その辺をちょっとお伺いします。

○企画観光課長（高橋良延君） 今回の新たな運行方法については、町単独での直通バスの運行ではなくて、戸田から土肥あるいは西伊豆町、松崎町の伊豆西海岸の利用者の利便性を図ることで今回の新たな運行方法は計画しているものでございます。

○6番（福本栄一郎君） それは、地区協議会ですか。協議会と言いますけれども、私は協議会のメンバーになっているんですけれども、3月11日は議会ですよ。3月定例議会の・・・、その辺をちょっと・・・。

○企画観光課長（高橋良延君） これは松崎の単独の地域公共交通会議ではなくて、南伊豆・西伊豆交通の協議会という意味でございます。

○6番（福本栄一郎君） じゃあ、町長にお伺いしますけれども、実績としては、1日1便あたり1.18人ということで回答をもらったんですが、いわゆる嘆願書・・・、町長が議員時代に620人の嘆願書を集めて、町長に嘆願したということなんですけれども、それについて、回答はいろいろもらっているんですけれども、やはり順天堂行きのバスのニーズが高いと・・・、だいたい救急車で運ばれて、ドクターヘリが来た場合はだいたい順天堂へ行きますよね。

それについて、再度お伺いしますけれども、1市5町でやっている下田メディカルセンター、これは、250万円前後ですか、負担金を納めておりますけれども、その辺の考え方・・・。そうすれば、東海バスが行きますよね。松崎駅から下田行き・・・。もちろん乗換もありますけれども・・・、駅から南伊豆方面・・・。その辺の考え方はいかなもののでしょうか。

なぜ順天堂ということなんでしょうか、その辺をお伺いします。

○統括課長（高木和彦君） やはり下田の方にも順天堂の方にも両方に行くというのが一番、

理想だとは思いますが、まず、下田の方は距離が短いということ、高齢者の方については、75歳以上の方につきましては、500円で1300円の分のバス券が買えるという関係もあるものですから、まずは、遠い方の順天堂ということが頭の中にあって、選挙公約の中に入れたと思います。

これについては、私は、健康福祉時代にいろいろ調べたことがありまして、松崎町の国民健康保険加入者、後期高齢者加入者、確実に西海岸を通って修善寺、先の病院に1日平均60人以上・・・、これに社会保険の方を入れますとかなりの方が通っているということは抑えています。

また、後期高齢者の方の場合は、75歳以上ですから、付添いがいるとかなりの数字があると・・・、当時は、健康福祉課で単独で東海バスさんと話をした時に、南伊豆から直通のバスもあって、それは運行しているという経過はあったものですから、いけるかなと思ったんですけれども、当時は、割と修善寺の先の伊豆箱根鉄道がやっている部分との競合というのがあいまいなところがあって、できたようではありますが、今回はそれができないということで、いま見直しをしているところでございます。

○6番（福本栄一郎君） 統括課長が説明しましたけれども、順天堂行きは、自家用車で行っても・・・、だいたい順調にいても松崎から1時間50分ですよ。松崎から・・・、この近辺からですよ。遠くの雲見とか池代とかじゃなくて・・・。

それで、歩いて行って、受付に行くまでにだいたい駐車場から10分程度かかる。

順天堂に何しに行くのか・・・、病気を診てもらうために行くんです。見舞いは別ですよ。健康体の人は別です。病人が自家用車で1時間50分乗って、病院に行ってもすぐじゃないですよ。2時間～3時間待たなければならない。我慢できると思いますか・・・。また帰って来なければならない。旅館に泊まればいいですよ・・・。

その辺が・・・、病人が・・・、しかも2時間近く車に乗って、しかも2時間～3時間待って、診察がわずか・・・、検査がなければ5分以内で終わりますよね。それでまた帰ってくる。これは実際体力的にもつと思いますか。しかも、我われ高齢者になると運転そのものができなくなりますよ。運動神経が鈍くなる、反射神経が鈍くなる、目が効かなくなる、手足が効かなくなる、これが自然の摂理ですよ。人間の・・・。

しかも、今度はバスに乗ると・・・、2時間近く、もっとかかるじゃないですか。また乗り換えて・・・、これが、患者本位の考え方ですか。これは・・・。その辺を考えてください。

○統括課長（高木和彦君） 病気があるから順天堂の方に行くということで、いまそこは、家

族がいるから一緒に乗せていってもら方もいますけれども、家族のいない方もいます。そういう方が自分が自家用車・・・、農業用の軽トラを持っているからそれで行こうということで、それで事故等があったら怖いということで、こういう直通のバスがあったらどうかなということなんです。

今のバスですと、いろいろな停留所に全部停まっているわけですが、その目的等によっては、停留所の場所を決めて何か所かにするとかで時間短縮とか、また、お薬をもらって帰って来る時間なんかを調整してなんてこともあるんじゃないでしょうか。

いまどういう形がベストということはちょっと言えませんが、当時そんなこともあって、企画した内容でございます。

○町長（長嶋精一君） あくまでも順天堂病院に行かれる方というのは、この町のお医者さんでは手術できないわけですから、重篤な病気を抱えている方というふうに思います。

それで、3次救急病院になっているわけですから、そこで手術をして・・・、福本議員がおっしゃりたいことは、たぶん・・・、例えば、順天堂病院でなければ治らない病気・・・、手術したあと、例えば、メディカルセンターだとか・・・、手術後、メディカルセンターだとか近くの病院で、そういう取り組みみたいなものを作って、日常的には近くの病院でお薬をもらったり、健診してもらったりすることでスムーズな流れができるような体制を作ってもらえば一番いいなと思いますけれども、そこら辺も我われが順天堂病院あるいはメディカルさんと・・・。メディカルさんに限りませんが、そういう形で交渉するのも考えていかなければならないなと思っております。

あくまでも、町のお医者さんで治る方は・・・、その治る方も順天堂病院に行ってくださいというんでは全くありませんから、町の中で治る方は町の中、それから下田メディカルというのを優先順位でやっていきたいなと思っています。

○6番（福本栄一郎君） 5分延長を・・・。

○議長（土屋清武君） 5分延長を許可します。

○6番（福本栄一郎君） ですから、1市5町でやっている下田メディカルを充実した方がいいと思うんです。

なぜかという、診療科目によって順天堂から派遣の先生が来ますよね。1週間に1回。確か、眼科とか、来ていますよね。河津の今伊浜病院も来ていますね。順天堂病院から・・・、診療科目によってですよ。

なおかつ順天堂にそのまま行きますと、診てくれますけれども、いわゆるかかりつけ医の

紹介状がなければ、5400円取られると・・・、保険適用外で・・・。

その辺で下田でしたらば、我われが1市5町の・・・、松崎町も加入していますし、公設民営ですから、そちらの方が、バスで行ってもそんなに体力的に負担にならない、時間的にも負担にならない方を充実した方がいいということを要望しまして、終わります。

次に、時間の関係がありますので、次のコンシェルジュの関係ですけれども、これは先ほどの町長の回答なんですけれども、8月20日から始めて1月末で一時中止しましたけれども、これは・・・、お聞きしますけれども、再開の可能性というのは・・・、考えているのでしょうか、その辺をお伺いします。

○統括課長（高木和彦君） これをやめる時に、内部でいろいろ話をした経過なんかもありますけれども、やはりこれを一回やめて、なんでやったかということを職員が忘れていたようでしたら再開というのはあり得るかもしれません。というのは、特に若い職員、松崎町の職員は採用されますと2日間だけでもくせい会館で研修を受けて、3日目というか、その時から職場の方に配置されます。

そういう点で、あいさつとか、そういうところ、接遇というのが欠けているというところがあるものですから、そんな新人職員の教育の意味も含めてコンシェルジュを始めたような経過がございます。

当番制でいろいろ工夫しながら・・・、町長の答弁にもありましたけれども、人的な手配ですとか、仕事の忙しい時にはなかなか苦勞するシーンもありましたけれども、一定の効果といますか、私どもが見ていて、そういうあいさつができたという点がありましたので、中断させていただきました。

また、職員の接遇がいい悪いというのは、松崎町の印象を大きく変えるものですから、もし、議員さんが見ていて職員の接遇、あいさつが欠けているということがありましたら、また私どもの方にお知らせください。

○議長（土屋清武君） 町長、今の質問に対しては・・・。

○町長（長嶋精一君） いま統括課長が言ったとおりなんですけれども、これは、私が掲げている町民満足度の高い町ということなんですけれども、やはりご来店、ご来庁される町民というのは、我われにとってお客さんなんです。

だから、そこら辺を我われは公僕としてしっかりあいさつもして、お迎えしようじゃないか、困った人があったら、それは誘導するというか・・・、2階に行きたいといったら2階を教えてあげるといようなことはやっぱり最低限やっていかなければならないなと考えまし

て、実行したわけですがけれども、だんだん私が見ても・・・、100パーセントとは言いませんけれども、徐々によくなってきているなと思います。

そして、係の1人がコンシェルジュをやることによって、その抜けたあとをほかの職員が協力しあるとか、そういう面も出てきたようですので、お互いがよかったのかなと思います。やはり町民が助け合う町イコール職員同士が助け合う町じゃなければ、助け合う職場じゃなければいけないと私は思います。

これがまただんだん悪くなったら・・・、議員さんの眼で「なんだ、元どおりじゃないか」ということがあったらば、再開することも検討してまいります。以上です。

○6番（福本栄一郎君） 私も40年近くお世話になったんですけれども、十分に素晴らしい職員だと思うんです。私は。

しかも町長が絶えずおっしゃっている費用対効果、受付の窓口税務課に女子職員が2人おりますよね。その裏に菅さんが控えていますけれども、3人体制、しかもこのつくりは1階もオープンスペース、2階もオープンスペース、皆さんがカウンターに行きまして「どういったご用件でしょうか」と声をかけてくれています。

ですから、私としては、あえてまた再開は・・・、いま町長は考えているようですけれども、もう必要ない、打ち切りだと思いますけれども、その辺をもう一度質問しますけれども、再開するのでしょうか。

1人職員が立つと・・・、私が一般質問で・・・、給与で360万円ですか・・・、年間給与ベースで・・・。屋上屋を重ねているじゃないでしょうか。

ここができてもう・・・、確か昭和55年だと思います。40年近く経っている。皆さん勝手知ったる役場だと思うんですよ。なじみのある役場だと思います。

あえて置く必要はないと私は思います。みなさん素晴らしく対応しています。評判もいいです。

ですから、屋上屋を重ねる・・・、費用対効果を考えている町長の考え方としては・・・、もう一度お伺いしますけれども、再開するのでしょうか。

私はもうやめるべきだと思いますけれども、その辺の町長のご意見をお伺いします。

○町長（長嶋精一君） 福本議員にぼくの腹の奥底を見透かされたような感じがいたします。正直言って、そのように褒めていただいて大変感謝をしております。

ただし、私としてはやはりまた悪い方向というか、あいさつももしないような形になったらまたやるぞと言っておくのが、これもまた町長の役目だと思っております。奥底を見られた

ようでちょっとあれですけども、そういうことでよろしいですか。

○6番（福本栄一郎君） 時間がないですから、そういった考えでお願いしたいと思います。

最後になりますけれども、この疲弊した町、先ほど言いましたけれども、人口が6768人、静岡県で1番少ない・・・、まちづくり、しかも高齢化率が50パーセント近くになりますよね。去年の4月1日現在、44.7パーセントですから、もう達しているかもわかりません。

こういった疲弊している町・・・、これから予算審議が始まりますけれども、住民税、いわゆる自主財源がだんだん落ちてくる。産業がないですから、年金生活者ですから、我われみたいだね。活性がない。

住民税の多い少ないが経済のバロメーターだと私は認識していますけれども、活性化のある田方の長泉町、函南、清水町あたりは当然固定資産税が上回っていますよ。若者が多い。住民税が増えてくる。バロメーター・・・。

○議長（土屋清武君） 福本君、時間がないですから、質問を簡単に言ってください。

○6番（福本栄一郎君） その辺をお伺いします。最後の質問です。

○町長（長嶋精一君） 私はそういう状況というのを非常に重く受け止めております。したがって、重く受けとめるだけじゃなくて、じゃあ、どうしたらいいのかということを考えます。

それは、松崎町には優れたものがあります。桜葉・・・、さっき桜葉を言いましたけれども、桜葉となまこ壁、これを・・・、やはり人口減少時代を賄うべく、交流人口を増やしていくためにはどうしたらいいかと・・・、お金を落としてもらう、それを過去のレガシーでいかしていくということをやってまいりたい。そのうえで、道の駅に直売所をつくって活性化する。下田から・・・、縦貫道が開通すると下田から西海岸に来る。その玄関口が道の駅であります。

そして、駿河湾フェリー、土肥から車で松崎に来る、もう長八美術館は何回も見ましたと、重文岩科学学校も素晴らしいです。でも、何回も来ました。いま欲しいのは、松崎の地場産品それと松崎港・・・、港があるわけですから、鮮魚類、魚介類といったものを求めているんだという生の声がございます。したがって、そういうことをやっていきます。経済活性化のためには・・・。

それともう一つは、小さい町だからこそ、人口が少ないからこそ助け合っていきたいと、災害対策・・・、隣の人を助けましょうと、無関心では困るという・・・。

○議長（土屋清武君） 町長、時間がないですから・・・。

○6番（福本栄一郎君） わかりました。

町長の考えるまちづくり・・・、職員のモチベーションを高めて、共通認識をもってまちづくりを・・・、人口が・・・、疲弊した・・・町を作るには、職員とのコミュニケーションをよくして、モチベーションを高くしていくことをお願いしまして、私の一般質問を終わります。
ありがとうございました。

○議長（土屋清武君） 以上で福本栄一郎君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 3時01分）
